

## 長期目標

目指すべき将来像を定め、そこから逆算して課題を抽出していくため、意欲的な目標を設定

### ◎エネルギー利用に関する目標

- ①2050年までに家庭用の電力及び熱利用  
再エネ自給率**50%**、熱利用再エネ自給率 **50%**  
(右図: **オレンジ**の部分)
- ②2050年までに家庭・業務・産業用の電力及び熱利用  
再エネ活用率**100%**、熱利用再エネ活用率**100%**  
(右図: **緑色**の部分)
- ③2050年までに多くの市民が交通分野の再エネを利用  
(右図: **紫色**の部分)

	電力利用	熱利用
家庭	50%	50%
業務	100%活用	100%活用
産業		

### 交通

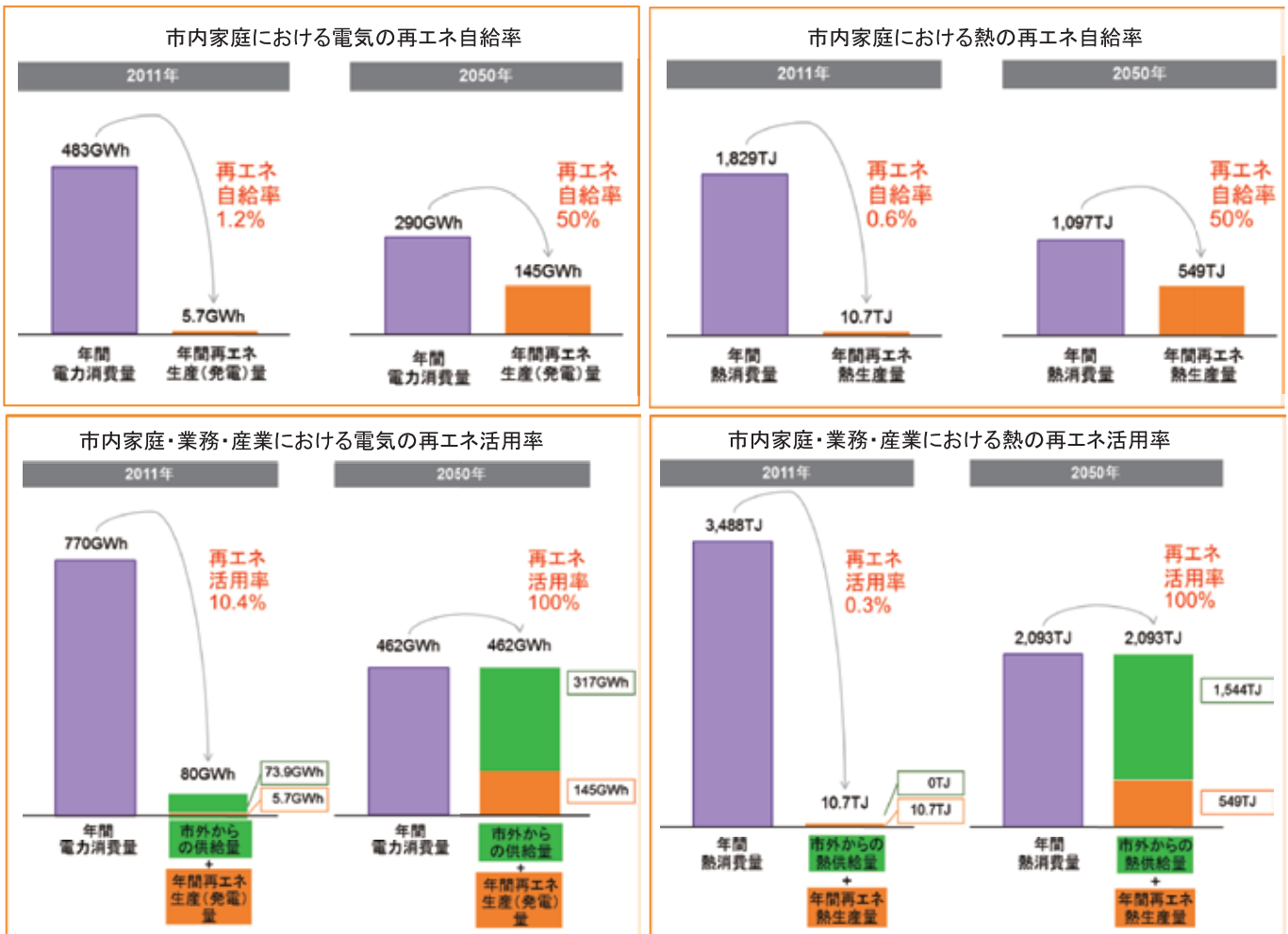
多くの市民が再エネをエネルギー源とする様々な交通手段を利用できる状況とする。(例: 太陽光発電で充電した電気自動車タクシー)

### ◎エネルギー利用以外の目標

- ①市民の100%エネルギープロシューマー化
- ②再エネを通じた災害に強いまちづくり
- ③再エネで雇用と経済を活性化

## 目標達成に必要な再エネ

◎2011年度と目標達成年度の2050年度とを比較し、目標達成に必要な再エネ(電気・熱)の量を表します。(※2050年には、エネルギー消費量は40%削減される見込みとして計算)



GWh(ギガワットアワー) 時間当たりの電力量の単位であり、10の6乗kWh  
TJ (テラジュール) 時間当たりのエネルギーの単位であり、10の12乗J

## 意欲的な目標値設定の必要性

- ①エネルギーは社会基盤であり、資源の枯渇や事故発生後の急激な転換が難しく、長期間の準備が必要である。
- ②市のあらゆる主体の連携による「がんばる目標」となり、再エネ利用の推進に取り組む主体の仲間づくりのツールとなる。
- ③目的達成のための手段の柔軟性を持たせることが可能となる。